

「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」における実践研究報告書

宮城県涌谷高等学校

I 学校所在地域の災害特性及び地域連携に係る現状等

- ・学級数 12 学級，生徒数 288 名，教職員数 47 名（2022 年 3 月 10 日現在）
- ・学校は，江合川流域に位置し，涌谷町防災マップではグラウンドの一部が浸水想定区域に位置しており，要配慮者利用施設には指定されていない。
- ・学校は，町の避難場所および避難所としても指定されているが，学校が避難所になった場合の対応については町防災担当部局との確認が不十分な点がある。
- ・令和元年東日本台風では，校地は浸水がなかったものの校区は浸水により被害を受けた。学校には，地域住民約 100 名が体育館に避難した。町の職員と住民で 2 日間過ごした。
- ・これまで，地域と合同の避難訓練は実施しておらず，地域の自主防災防災組織と連携した災害時の対応の共有化を地域住民と図っていく必要がある。
- ・校区の災害特性について，これまでは町内の各学校防災担当者や町防災担当部局で確認してきたが，専門家や地域住民と確認してきたことはない。

II 取組状況

1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施

●学校版タイムラインの作成（検討中，別紙 1 参照）

- ・目的：地域の特性を踏まえ，台風(大雨)を想定した警戒レベルに応じた学校としての対応を時系列で整理して可視化する。
- ・検討会日時：11 月 24 日(水)，1 月 26 日(水) ・検討会場所：本校
- ・検討会参加者：佐藤健氏（東北大学災害科学国際研究所教授，学校防災アドバイザー），教頭，防災主任，前年度防災主任
- ・内容：対応を学校管理下内と学校管理下外で分けること，台風は時間的余裕があり見通しが立てやすいが前線性豪雨は状況の変化が速いので生徒を引き渡さない選択肢もありうること等について佐藤先生からご助言いただいた。現在はそのご助言をもとに運用に向けて修正中。

●涌谷町総合防災訓練の参加・見学

- ・目的：近年の災害教訓を活かし，発災時に地域住民・防災関係機関及び各種団体が一体となり，迅速かつ的確な災害応急活動が実施できるよう相互の協力体制の確立を図るとともに，水害を想定した実践的な訓練とし，地域住民の防災意識の高揚と防災技術の習得を図る。
- ・主催：涌谷町総務課防災交通班 ・日時：11 月 27 日(土) ・場所：涌谷町立涌谷第一小学校
- ・想定：強い勢力を持った大型台風が接近。気象庁は県内の市町村に対し大雨・洪水・暴風警報を発表。涌谷町でも江合川が増水し堤防の損傷及び決壊が予想される。
- ・参加者：涌谷町総務課防災交通班，町内該当地区自主防災組織，NPO 法人防災士会みやぎ，遠田消防署，遠田警察署，涌谷町消防団，本校防災主任，本校学校防災アドバイザー 計 123 名

- ・内容：次年度本校で実施予定の町の総合防災訓練(IV参照)の準備として、全体像を把握するために佐藤先生と防災担当が参加。避難訓練，避難所開設訓練，応急救護訓練，段ボールベッド等設置訓練等が行われた。住民の避難までに受付や使用場所等は町の職員により既に準備されていた。どこまで実際に想定し地域住民が自主的に避難所を開設・運営するかが課題であると佐藤先生からご助言いただいた。



受付(避難訓練)の様子

2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

●涌谷町学校防災担当者会

- ・目的：(1)各学校における防災教育の推進を円滑にするため、町内の幼稚園，小・中学校及び高等学校の防災教育に関わる情報交換を行う。(2)学校防災マニュアルや避難所運営マニュアルの作成について情報交換を行う。(3)涌谷町全体としての防災教育推進に向けて、町内学校間の連携を図る。
- ・主催：涌谷町教育委員会 ・日時：4月21日(水)，9月22日(水)，11月24日(水)，1月26日(水)
- ・場所：涌谷町立涌谷中学校(9月22日(水)は本校) ・参加者：涌谷町内の保育園・こども園・学校の防災担当者，涌谷町教育委員会，涌谷町総務課防災交通班，遠田消防署
- ・内容：毎年4回実施。例年6月に各校合同実施の一斉引き渡し訓練(本校は不参加)の計画・反省，防災マニュアルについての情報共有などを主に行った。各回佐藤先生にご出席いただき，町の避難所設置運営マニュアル(学校施設編)等に対し，開設時の地域住民の自主性と学校職員の協力体制のバランスや要配慮者利用施設の避難確保計画についてご助言をいただいた。

3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

●教職員研修(第2回涌谷町学校防災担当者会) (別紙2参照)

- ・目的：地域の特性を踏まえた災害初動期の避難行動や避難所運営について、町と学校が情報共有をしながら、理解を深める。
- ・主催：涌谷町教育委員会 ・日時：9月22日(水) ・場所：本校 ・講師：本校学校防災アドバイザー
- ・テーマ：「指定緊急避難場所への避難行動と指定緊急避難場所の開設・運営」
- ・参加者：本校職員，涌谷町内の幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校の防災担当者，涌谷町教育委員会，涌谷町総務課防災交通班，遠田消防署 計45名
- ・内容：要配慮者利用施設における避難確保計画のポイントとして，緊急避難場所としての指定状況の把握，避難判断に参考となる気象情報，ハザードマップや地形図を活用した検討等についてお話しいただいた。また，災害に備え学校と地域が連携していくポイントとして，地域住民との避難方法の事前の共有，地域との日頃から顔の見える関係の構築や連携した訓練の実施等についてお話しいただいた。



研修会の様子

4 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施

●防災訓練

- ・春季防災訓練(6月11日(金))：授業中，地震・火災想定(防火扉を閉めて避難)
- ・秋季防災訓練(11月12日(金))：放課後，地震想定，防災主任不在，事前に教員不在でも頭部保護(シェイクアウト訓練)・避難することを生徒に周知，避難誘導：部活動顧問，点呼：担任

●防災学習行事

- ・第1回防災講演会(6月7日(月))：雁部那由多氏(語り部)，
テーマ：「被災体験と高校生へのメッセージ」
- ・第2回防災講演会(オンライン)(9月10日(金))：
諏訪清二氏(防災学習アドバイザー)，テーマ：「災害と向き合う」
- ・被災地訪問学習(1学年・3学年)(12月8日(水)，10日(金))
(別紙3,4参照)：大川小学校遺構(佐藤敏郎氏(案内)，平塚真一郎氏
(講話)，伝承館・裏山・校庭見学)，女川・門脇南浜地区(見学)



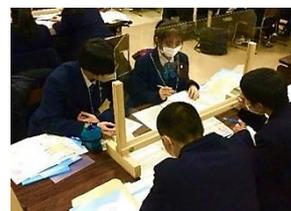
被災地訪問学習
(大川小学校)

●ボランティア活動等 <主催>

- ・「青い鯉のぼりプロジェクト」ボランティア(5月8日(土))
<青い鯉のぼりプロジェクト>：生徒16名参加，
東松島市で鯉のぼりの掲揚作業
- ・秋季防災訓練企画(10月6日(水))(別紙5参照)：生徒3名参加，
KJ法を用いて「地震+α」の想定を考える活動
- ・映画エキストラボランティア(10月23日(土)，24日(日))<UNCHAIN10+1>：
生徒3名参加，映画『有り，触れた，未来』(山本透監督)，
原作『生かされて生きる-震災を語り継ぐ』(齋藤幸男，河北選書)
- ・みやぎ防災ジュニアリーダー研修会(12月12日(日))
<宮城県教育委員会>：代表生徒2名参加，講義(平塚真一郎氏，
佐藤健氏)，マイトimeline作成ワークショップ
- ・兵庫県・三重県・むつ市合同研修会(1月9日(日))
<兵庫県防災ジュニアリーダー事業・兵庫県立舞子高校>：生徒2名参加(4県11校70名)，
災害後の対応を考えるワークショップ(班別，震災を経験された方の助言)
- ・東日本大震災メモリアル day2021(オンライン)(1月22日(土))<宮城県多賀城高校>：
生徒3名参加(1都1道7県15校)，学校紹介・基調講話・研究発表聴講・意見交換
- ・防災備蓄品仕分けボランティア(1月28日(金))：生徒19名参加，防災備蓄品の仕分け作業



「青い鯉のぼりプロジェクト」
ボランティア



みやぎ防災ジュニア
リーダー研修会

●授業での取組 <主催>

- ・総合的な探究の時間(2学年)(10月28日(木)，11月4日(木))：災害図上訓練DIG(白地図に書き込みながら学校周辺の災害特性を理解するワークショップ)
- ・総合的な探究の時間(1学年)(2月10日(木)) (別紙6,7参照)：「1日前プロジェクト」(「24時間後に地震が起きるとしたらどうするか」を考えるワークショップ)
- ・各科目での取組：地震と緊急地震速報・津波に関する学習(2学年地学基礎)，防災に関するプレゼンテーション・防災パンフレットの作成(3学年国語表現)，「備えの手紙-震災15年後の私へ家族へ-」<河北新報社>(各学年国語)，サバ飯の作り方に関する学習(3学年選択フードデザイン)等

●その他

- ・防災学習振り返りシート(別紙8参照)：OPPA(一枚ポートフォリオ評価)，防災学習行事ごとに「学んだこと・感じたこと」と「自分にできること」を記入，1年間の考えの変容を確認
- ・学校防災だより「つなぐ」(別紙9参照)：防災に関する行事の報告や生徒のコメント(振り返りシートより抜粋)等を掲載，生徒へ配布・校内掲示・学校HP掲載



涌谷高校 HP
学校防災だよりのページ
[こちらをクリック](#)

Ⅲ 取組を通じた成果と課題

●成果と課題		
項目	成果	課題
1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施	地域の災害特性を踏まえた台風(大雨)の対応を多角的に検討できた。 来年度の総合防災訓練に向けて、訓練の全体像を把握できた。	学校版タイムラインと地域と連携した訓練について、いずれも計画段階で終わってしまった。
2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施	学校施設の避難所運営設置マニュアル等について、町や各校で情報共有することができた。	実際どのように避難所開設・運営していくか等の議論を深めることはできなかった。
3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施	要配慮者利用施設における避難確保計画や地域連携のポイントについて理解を深めることができた。	校内の防災体制についても、現状よりさらに理解を深めることが必要である。
4 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施	大川小学校遺構訪問をはじめとした防災学習行事やボランティア活動を通して、生徒の防災意識を高めることができた。	涌谷町の災害特性を理解する学習やそれを踏まえての自分にできること等を考える学習が不十分であった。

●生徒・教職員対象の「防災意識に関する調査(6月・2月実施)」の結果(一部)

- ・生徒(6月回答数 276, 2月回答数 259)「災害発生時にどこに避難すればよいか理解していますか。」
 - 「理解している」 : 6月回答数 84 (30%) → 2月回答数 94 (36%)
 - 「おおむね理解している」 : 6月回答数 163 (59%) → 2月回答数 146 (57%)
 - 「理解していない」 : 6月回答数 29 (11%) → 2月回答数 19 (7%)
- ・教職員(6月回答数 30, 2月回答数 23)「災害発生時の学校としての避難対応を理解していますか。」
 - 「理解している」 : 6月回答数 3 (10%) → 2月回答数 2 (9%)
 - 「おおむね理解している」 : 6月回答数 24 (80%) → 2月回答数 20 (87%)
 - 「理解していない」 : 6月回答数 3 (10%) → 2月回答数 1 (4%)

Ⅳ 次年度の取組予定等

1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施
・ 涌谷町総合防災訓練(生徒・教職員・地域住民・町の防災部局等, 避難訓練・避難所開設訓練等)
2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施
・ 災害図上訓練 DIG(生徒・教職員・地域住民で涌谷町の災害特性を学ぶ)
・ 避難所運営ワークショップ(生徒・教職員・地域住民で避難所運営について考える)
・ マイタイムラインの作成
・ 災害発生後の対応ワークショップ(生徒・教職員・地域住民で発災後の課題と解決策を考える)
3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施
・ 教職員研修(町防災部局による避難所の説明, 倉庫の鍵や備蓄品を確認する校内フィールドワーク)
4 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施
・ 被災地訪問学習(石巻市震災遺構大川小学校)
・ ボランティア活動(「青い鯉のぼりプロジェクト」, 涌谷町内での各種ボランティア活動)